交通分野における情報ユニバーサルデザイン

金子達史*

Universal Design for the Information System in the Field of Public Transportation

Tatsuji Kaneko

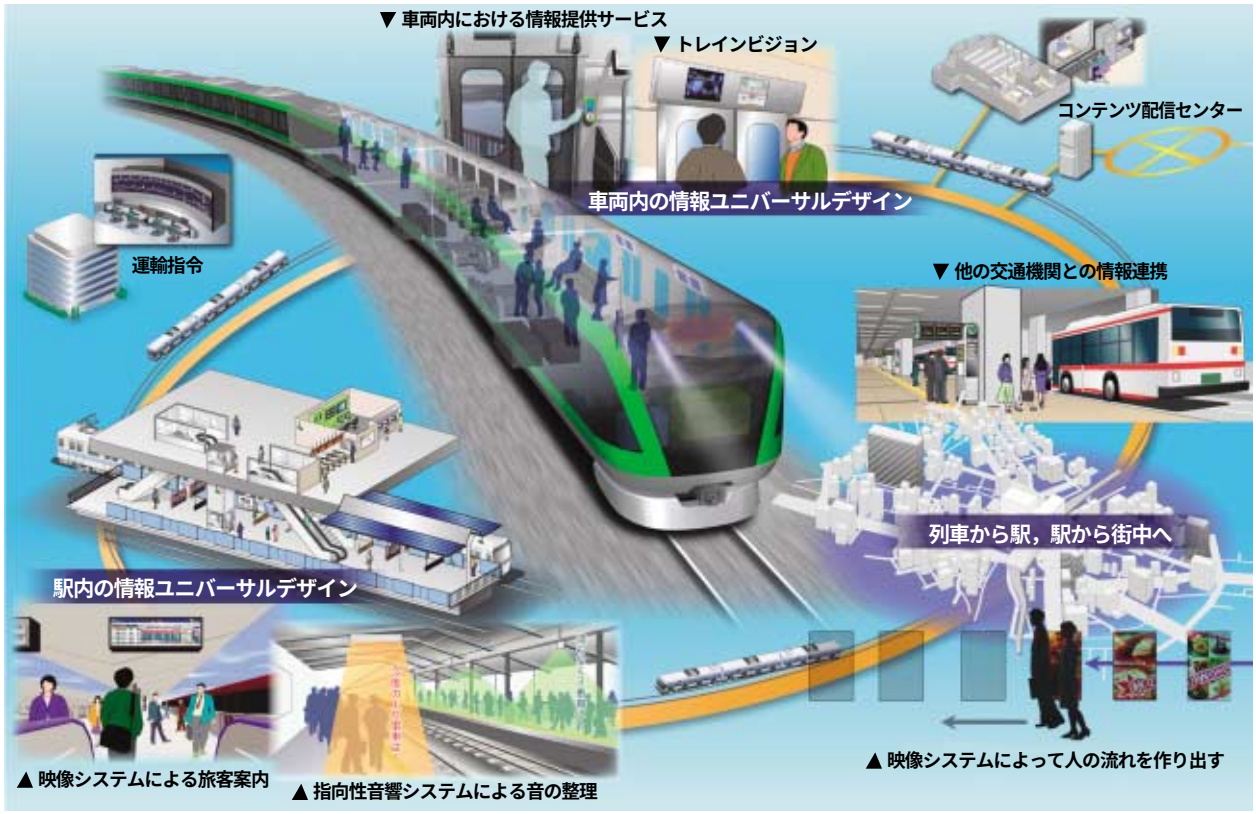
要　旨

人にやさしい交通システムの実現を目指す上では，例えば障がいを持たれる方や高齢の方々が移動する上でのバリアを取り除くといったバリアフリーの概念だけでなく，すべての人を対象としたユニバーサルデザインの概念を取り入れていくことが重要となってくる。特に，今後のユニバーサルデザインとしては，昇降機などの物理的な移動を支援する対策だけでなく，すべての人が迷うことなく，安全・安心に移動できるための，人々の認知・判断を支援する“情報のユニバーサルデザイン”の整備が強く求められてくるものと考えている。本稿では，この“情報のユニバーサルデザイン”を主題として，車両内，駅内，さらには地上－車上の連携による交通分野全体で目指すべき情報ユニバーサルデザインについて述べる。

車両内については，現行の車両内映像情報システム“トレインビジョン”のさらなる改善や，情報ユニバーサルデザインの新たな取り組みについて述べる。

駅内については，表示器による視覚情報やアナウンスによる聴覚情報など各種の情報を整理，再構築して最適な情報環境を提供していく“情報のトータルプランニング”の考え方について述べる。

さらに，列車から駅，駅から街中までのシームレスな情報連携のサービスモデルについて述べる。



交通分野における情報ユニバーサルデザイン全体像

人にやさしい交通システムを考える上では，一つの駅や車両などの限られた範囲の中だけでなく，今後は移動環境や駅を中心とした街づくりの視点も求められてくる。

*デザイン研究所